

《譲ること、与えること、楽しむこと》

もし、急にお腹がいたくなってトイレに行ったときに、トイレットペーパーがなかったらとまどいますね。そして、ものすごくよく晴れた日に、散歩でもしようと思つたところ、急に夕立になったらやはりとまどいますね。この世の中で、私たちはいろいろなことによつてとまどいます。ある哲学者は、「人生はとまどいの連続で、それ以上でもそれ以下でもない。」という表現をしました。とにかく私たちには、とまどうことがたくさんあります。

皆様にとって、今までで一番とまどったことは何でしょうか。たぶん、今までだけでなくこれから、とまどうことはたくさん起こるでしょう。そうしたら、人生全体を見て、一番とまどうものは何だと思ひますか。個人的な考えかもしれませんが、「することはたくさんあるのに時間がない。」そういう気持ちになる時ではないでしょうか。皆様にも同じ記憶があると思うのですが、子どもの時は、「早く時間が経って大人になりたい。そうすれば、やりたいことがたくさんある。」という気持ちで過ごしていたと思ひます。ところが大人になると、「なぜこんなに早く時間が過ぎるのか。」と思うようになります。それを何とかしようとする、「手遅れ」や「今は出来ない」というがっかりした気持ちになってしまいます。

ホスピスという仕事があります。世話をする人も世話をされる人も、もうあまり時間が残っていないことをお互いに認めながら、間もなく亡くなる方のお世話をされるきれいな仕事です。そのホスピスの仕事をする人々への質問の結果をまとめた統計があります。その中に、「死を迎えている人々がよく話すことを3つ選んでください。」というアンケートがありました。その答えで多かったのは、一番目は、「あの時、もう少し我慢をすればよかった。」二番目は、「あの時、もう少し施せばよかった。」そして三番目は、「あの時、もっと楽しめばよかった。」この3つだそうです。「もっと勉強すればよかった。」とか、「もっとお金を儲ければよかった。」とか、「丈夫な体のためにもっと頑張ればよかった。」という答えは、ほとんどなかったそうです。

一つ目の、「もう少し我慢をすればよかった。」ということは、「係わりのために、もっと譲ってあげればよかった。」という意味ですね。二番目の「もう少し施せばよかった。」は、「いつも欲張ってしまった自分の人生を虚しく思う。」ということです。三番目の「もっと楽しめばよかった。」は、「神様はいつも楽しめる時間を十分にくださったのに、焦ってばかりで楽しめなかった。」ということです。ほとんどの人の人生も同じではないでしょうか。それは、正しいものと正しくないものの識別ができないからそうになってしまうのではないかと思ひます。

この統計を見て、私も考えてみました。「私は今、いい意味で我慢をしながら過ごしているのか。」「本当に心をこめて、人々によい心を与えているのか。」そして、「楽しんでるのか。」たぶん6割くらいは出来ているのではないかと思ひましたが、皆様はどのように思われるでしょうか。

私たちがとまどいから解放されるためには、たぶんこの3つのことを考える必要があると思ひます。この3つをよく考えてみますと、それは神様の教えです。結局、この統計の3つの結果は、「神様の教えに忠実に従っているのかどうか。」を表しているのではないかと思ひます。過ぎてしまうものに命を懸けないで、本当に自分の命を豊かにするために一生懸命頑張ってきたのなら、気持ちよく、自分に与えられる運命を受け入れられるのではないかと思ひました。

さあ、今日の福音(ルカ 8・1-3)では、イエス様に会って自分の人生が変わった婦人たちが紹介されています。聖書の学者達は、「エルサレムの婦人たち」と呼んでいます。この「エルサレムの婦人たち」の共通点は何でしょうか。それは、「イエス様に会ってよかった。」で終わるのでなく、人生の全てをかけて自分を変化させた、ということです。彼女達がイエス様に会ったとき、社会的な目で見たらイエス様はそんなに豊かな条件の人ではなかったと思います。しかし彼女達は、イエス様に会って心を打たれ、「この人のために全てを捨てて奉仕しながらついて行こう。」というものすごい決断をしたのです。聖書には、「持ち物を全部売って、弟子達とイエス様を支えた。」と書かれています。これはふつうの人間的な感覚ではできないことです。しかし、彼女達はやりました。弟子達が全部逃げた時も、この婦人たちはゴルゴタの十字架までついて行きました。そして、イエス様を励まし、慰め、泣きながら自分達の心を伝えたのです。たぶん彼女達は、与えられた命の意味、命の価値、どうすればこの命を一番豊かに使えるのかについて、自分なりの体験ができたのでしょうか。

私達も、このような心で、各自の信仰を振り返ってみる必要があるのではないのでしょうか。「本当に神様のみ旨にきちんと従っているのか。」「死ぬときに、『よく譲り合ってよかった。いろいろなことを分かち合えてよかった。神様のくださった恵みを楽しめてよかった。』という喜びで満たされるか。」そして、「何の恐れもなく、笑顔で、『これからあなたのところに行きます』と言えるか。」そのようになれば、一番幸せになれるのではないかと思います。

皆様、私たちに与えられた人生は1分前でも取り戻すことはできません。いつも、これからです。そして、その「これから」がいつ終わるのかわかりません。ですから、「これから」について、私たちはもっと、意味のある時間を作ろうと頑張らなければならないと思います。

結論として申し上げたいことがあります。それは、「幸せになりたければ、神様のみ旨に従ってください。」です。これはたぶん、世が変わっても一番正しい正答なのではないかと思います。

ありがとうございました。